

第38回 オートサービスショー 2025

「次世代モビリティと共に歩む整備機器」をテーマに

日本自動車機械工具協会(機工協)主催の「第38回オートサービスショー 2025」は19日から21日の三日間、東京ビッグサイトで開かれた。「次世代モビリティと共に歩む整備機器」がショーテーマ。自動車整備機器類で国内最大級の専門見本市として、今回は出展者数104社8団体・出展小間数1107小間。前回は上回る規模での開催となった。タイヤ整備の関係企業はタイヤチェンジャーやホイールバルンサー、アライメントテスターをはじめ各種機器の最新モデルを多数出展。深刻化する人手不足への対応を図った省人化・軽労化機器の展示と最新情報を発信。作業の安全と効率化の実現をめざすとともに、作業品質の向上を提案した。

小野谷機工

〈Making future work style Easier—

これからの働き方をもっと簡単に—〉が展示ブースのテーマ。国産メーカーの強みを活かし、新商品・参考出品モデルを数多く出展した。

宇田公郎社長=写真①=は「少子高齢化で労働人口が減少し、整備業界では人手不足への対応を図るため、女性やシニア層を現場で活用するかが課題解決の一つの糸口。当社の取り組みとして、より安全で、一層の効率化を図りながら、省人化・軽労化を実現する機器を開発し、ショー出展を通じてご提案するもの」と語る。

それを象徴するのがコンセプトモデルの自動組み込み専用タイヤチェンジャー「EM-19230」。チャッキングには同社初のセンターロック方式を採用した。

屋外展示会場ではTB用・PC用2台のタイヤサービスカーを参考出品。いずれもEVコンセプトカーで、動力源にリチウムイオンバッテリーを搭載。発動発電機を不要とし作業スペースを拡大しながら、CO₂排出量を削減するなど環境負荷の低減を実現する。

